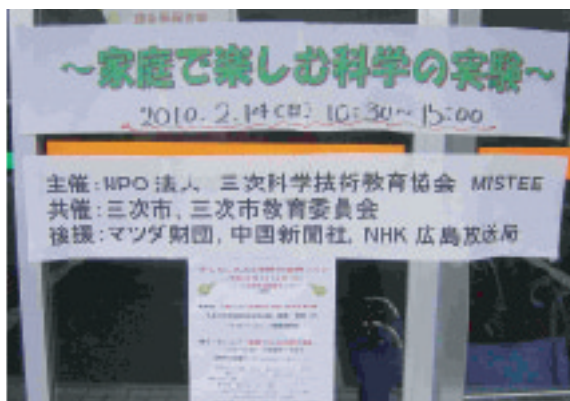


| | | |
|---|------|---------------------|
| 活動名 親子わくわく科学教室 | 団体名 | 特定非営利活動法人三次科学技術教育協会 |
| | 地域 | 広島県三次市 |
| | 代表者 | 専務理事 寺重 隆視 |
| | 支援金額 | 30万円 |
| 活動概要 | | |
| <p>都市部と比較して科学技術に関する体験学習の機会が乏しい中山間地域において、子どもと保護者が、ともに科学技術を楽しみ学び、家庭での話題とし、それを通じて子どもたちの知と徳のバランスのよい育成を図るとともに、地域全体で科学技術への関心を高めることを目指した。具体的には、基調講演と参加型ワークショップからなるイベント「子どもと大人の科学の祭典2010」を行った。基調講演では「育てよう、自然を見る眼・自分を見る眼」と題し、広島大学大学院教育学研究科 前原俊信教授にお話をいただいた。</p> <p>また参加型ワークショップでは、「電子工作」、「モータ」、「静電気」、「ロボット」、「つりあい」、「大気と水」、「霧」、「光」、「鏡とレンズ」、「望遠鏡」、「星」、「モデルロケット」、「エントロピー」などに関する実験を行っていただいた。</p> <p>◆実施時期：2010年2月14日(日) 三次市生涯学習センター</p> <p>◆参加人数：基調講演 60名 ワークショップ 235名 フォーラム 15名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 約310名</p> | | |



《看板》



《エントロピー》



《実験》



《実験》

◆実施に伴う効果

「子どもと大人の科学の祭典2010」は講演や実験ワークショップを含む総合的な科学イベントであるが、この種の企画は、広島県北部では初の試みと思われる。アンケートの結果、このような企画はぜひ続けてほしい旨の記述が多くみられ、興味・関心が高い人が多いことが明らかになった。都市部と比較して科学技術に関する体験学習の機会が乏しい中山間地域において、子どもと保護者がとともに科学技術を楽しみ学ぶ機会を提供でき、家庭において親子と子が科学技術を話題とするきっかけとなったものと思われる。さらにそれを通じて子どもたちの知と徳のバランスのよい育成を図るとともに、地域全体で科学技術への関心を高める機運を醸成できたと考えている。「子どもと大人の科学の祭典2010」の様子は、中国新聞(2010年2月15日朝刊)、NHKニュース(2010年2月14日18時45分ごろ)で放送された。その中では子どもたちのいきいきとした表情が印象的であった。

◆苦労した点

スタッフ全員が、現役の職業人または学生であり、それぞれが時間の捻出や、準備等全員が参加できる日程の確保に苦労した。
(スタッフを支えているのは「科学を愛する気持ち」と「使命感」である。)
外部へのPR、特に小中学生へのPRに苦労した。校長会等を通じ学校へ周知しても、多くの学校で児童生徒に十分伝わっていない。
予想を超える来場者があり、実験の説明に苦労した。(これは嬉しい悲鳴かもしれない)

◆今後の課題・発展の方向性

教員、PTAなど学校教育との連携をさらに進めていき、科学技術分野での確たる「地域の教育力」となるよう、組織を安定的に維持していきたい。
家庭教育における科学技術教育にも目を向け、保護者との連携を深めていきたい。
スタッフの力量をさらに高めるため、組織内部での研修を充実していきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

三次科学技術教育協会(MISTEE)のスタッフは全員現役の社会人、学生のボランティアです。多忙な仕事・学業という日常の中、「科学技術を愛する気持ち」と、それを通じて「地域の教育を活性化したい」という使命感とで、これまでの3年間の活動を進めてきました。今回の行事は、その集大成、という意味もありましたが、成功裡に終わり、参加者、行政、マスコミにも評価していただき、大変うれしく思っています。達成感とともに、自信のようなものもスタッフに芽生えてきたように思います。マツダ財団様には、大変大きな援助をいただき、真にありがたく存じます。物質的援助はもちろん重要ではありますが、同じくらいに「マツダ財団の助成を受けている」という誇りが精神的な支えになった部分もあったと思います。心よりお礼を申し上げます。